

| 人体機能学実習 |                 | 実習       | 教授 西川 彰  |
|---------|-----------------|----------|----------|
| 科目カテゴリー | 柔道整復師コースの専門基礎科目 | 科目ナンバリング | 12311202 |

### 1. 授業のねらい・概要

柔道整復師が実施する運動器の評価法には、「関節可動域」「徒手筋力」「四肢計測」「徒手検査法」などがあり、そのうちこの授業では「関節可動域」と「徒手筋力」に関する知識と測定技術を学ぶ。それらの測定から得られたデータと運動能力（投球速度・キック速度、ジャンプ力、バランス能力、アジリティ能力など）との関連性を分析し、臨床上の治療に活かせる基礎的な身体機能の評価法が習得できるよう実習形式の授業を実施する。

### 2. 授業の進め方

関節可動域、徒手筋力、運動能力それぞれの測定方法を説明した後に、各グループ（4～5人／グループ）に分かれてデータ測定を進めていく。また、得られたデータはPC（Microsoft Excel）に入力し分析を行った上で、「生理学実習レポート」を作成し、次の授業開始時の提出課題とする。

### 3. 授業計画

|                             |                          |
|-----------------------------|--------------------------|
| 1. ガイダンス<br>生理学的データの基本的分析方法 | 8. 徒手筋力の分析               |
| 2. 関節可動域の測定①（上肢）            | 9. 筋力増強トレーニングと徒手筋力の関係    |
| 3. 関節可動域の測定②（下肢）            | 10. 運動能力の測定①（投球速度・キック速度） |
| 4. 関節可動域の分析                 | 11. 運動能力の測定②（ジャンプ力）      |
| 5. ストレッチングと関節可動域の関係         | 12. 運動能力の測定③（バランス能力）     |
| 6. 徒手筋力の測定①（上肢）             | 13. 運動能力の測定④（アジリティ能力）    |
| 7. 徒手筋力の測定②（下肢）             | 14. 運動能力の分析              |
|                             | 15. まとめ                  |

### 4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

互いの生理学的知識と測定技術、分析能力を高めるために、学生同士が協力しあって「生理学実習レポート」作成に取り組んだ上で、毎回の授業に臨むこと（1時間程度）。

### 5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポートについては添削、採点を行った上で返却する。また、定期試験については正答と問題の要点を希望者に配布する。

### 6. 授業における学修の到達目標

本授業では、生理学的な知識をただ暗記するだけでなく、その機能と運動能力との関連性などの統合的な理解を得ると同時に、運動器の測定データを運動能力の向上に役立てる技術の習得を目標とする。

### 7. 成績評価の方法・基準

提出課題（レポート）（約30％程度）並びに定期試験（期末試験）の結果（約70％程度）より総合的に評価する。

### 8. テキスト・参考文献

全国柔道整復学校協会 監修、『生理学 改訂第4版』、南江堂、2020年  
大橋敦子 監修／鍵谷方子、金澤佑治ら 著、『生理学実習 NAVI 第3版』、医歯薬出版、2023年  
その他の参考資料は、必要に応じて授業中に紹介または配布する。

### 9. 受講上の留意事項

毎回の授業時にはテキスト並びに配布プリントを必ず持参すること。

講義回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合は、定期試験の受験資格を失うこととする。

**10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無**

該当する。本授業は、人体解剖トレーニングセミナーにおける実務経験を活かして指導する。

**11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連**

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。